

[表紙]

2018年度
湘南むぎばたけ
災害対応マニュアル（簡易版）



社会福祉法人 ひばり
生活支援グループ

地震対策

1 大規模地震

国が設置する有識者会議の2013年の資料では、今後30年以内にマグニチュード7クラスの地震が70%の確率で首都圏を襲う予想となっています。それから5年が経過していることから、さらに確率は高まっているものと考えられます。

このようなことから湘南むぎばたけでは、いざという時のために様々な準備を進めています。

(1) 家庭でできる準備（参考）

- ① 家具の転倒防止（ストッパー等の利用）
- ② 食料・飲料等の備蓄（1日1人3ℓを3日分）
- ③ 非常用持ち出しバッグに用意（飲料水・食料品・ビスケット・缶詰等）
- ④ 救急用品（包帯・絆創膏・常備薬・消毒薬・マスク等）
- ⑤ ヘルメット・防災頭巾等
- ⑥ 軍手・懐中電灯・予備電池
- ⑦ 衣類・下着・女性用ナプキン
- ⑧ 携帯ラジオ
- ⑨ 使い捨てカイロ・ティッシュ・洗面用具・簡易トイレ
- ⑩ 家族の連絡方法
- ⑪ 家族間で避難場所を確認

(2) 湘南むぎばたけの備え

湘南むぎばたけは、福祉避難所の役割を担うため一定の備蓄を常に行っています。

(3) 湘南むぎばたけの避難訓練

湘南むぎばたけでは、毎年2回、9月と3月に避難訓練を実施しています。大規模災害が起こったら身の安全を守ることを基本に屋外への避難の練習を行います。

(4) 地震発生時の7つの行動

- ① 危険から身を守る
- ② 周辺の被害状況を確認し一時避難をする（周辺の空き地等）
- ③ 湘南むぎばたけが利用できる場合は、建物内で待機する
- ④ 建物が危険な場合は、避難所（善行中学校）へ避難する
- ⑤ 職員は、家族へ連絡を開始する
- ⑥ 道路の被害が少ない場合は、送迎を開始する
- ⑦ 帰宅が困難な場合は、避難生活を開始する。（湘南むぎばたけ又は善行中学校）

以上の行動となります。

風・雪・水害対策

II 風・雪・水害

風・雪・水害については、気象予報等である程度は予測がつきます。したがって気象予報に基づき一定判断し次の対応をしていきます。

(1) 湘南むぎばたけを閉鎖する場合（休み）

- ① 予め気象予報により風・雪・雨が強まり施設の運営や送迎を含めた通所に支障や危険が伴うと判断できる場合は休みとします。
- ② 施設開設後に天候の急変等で帰宅時の送迎や交通機関に運休等が出始めた場合は運営を早めに終了します。その際は、予めご家庭に連絡をします。

火災対策

III 火災

湘南むぎばたけが火災となった場合は、職員で構成する自衛消防組織の消火活動や消防隊の消火活動となります。このような状況が発生した場合は、施設利用者の生命を第一に考え速やかに屋外へ避難を開始します。屋外への避難が終了し安全が確認できた段階で、ご家族への連絡を開始します。

火山の噴火対策

IV 火山の噴火

昨年は箱根の大涌谷で小規模の噴火が occurred。その後、今年（2018年）に入り群馬県の白根山が噴火したように火山活動が活発化しているとの見方もあります。

特に心配されるのが富士山の噴火です。富士山は宝永の噴火以降300年余りも沈黙続けてきましたが、活動が活発化しているとの調査もあります。

国や周辺自治体では、富士山の噴火に備え様々な訓練をするなど対応を進めています。仮に宝永の噴火と同規模の噴火が起こった場合、藤沢市周辺はどのような被害が起こるのでしょうか。富士山火山防災協議会が作成したハザードマップによると藤沢周辺では、10cm～30cmの降灰となっています。この場合どのようなことが起こるか以下にまとめてみました。

《火山の噴火による被害想定》

- ① 自動車や電化製品（パソコン等）が使用不能になる可能性がある
- ② 舞いあがった灰で屋外では目を開けていられない状態となる（コンタクトは危険）
- ③ 家の屋根に灰が30cm積もり、雨が降ると重みで家が倒壊する可能性がある

- ④ 田畑は全滅する
 - ⑤ 火山岩等が飛翔すると家の屋根に穴があいたり人にあたると非常に危険な状況となる
 - ⑥ 河川に流れ込むと川底に溜まり洪水や氾濫となる場合がある
 - ⑦ 水道水が使用不能になり発電施設に降灰すると発電不能になる（停電）
 - ⑧ 長期化すると食料品の調達等が難しくなる（自動車での輸送ができない）
 - ⑨ 交通機関に乱れが出たり不通となる。
- 以上のような被害が予測されるようです。

(1) 湘南むぎばたけの対応

火山の噴火に備え次の物品の購入備蓄を進めます。

- ① 防塵ゴーグルを備え付ける
- ② 防塵マスクをストックする

(2) 富士山が噴火したら（風向き・強さによるが降灰は1～2時間後）

- ① 屋内に避難する。
- ② 出入り口や窓から灰の浸入を防ぐための目張りをする
- ③ ご家族への連絡を早い段階で開始する（帰宅を調整する）
- ④ 降灰が始まったらゴーグルやマスクを着用する
- ⑤ 外出時はヘルメットを着用する

ミサイルの着弾対策

V ミサイルの着弾

東アジアの緊迫した情勢により、にわかに雲行きが怪しくなってきたのが北朝鮮がミサイルを発射した場合です。

神奈川県や藤沢市でもJアラート（人工衛星と広報無線）を利用した弾道ミサイル発射時の放送テストを昨年実施しました。このようなことから今後予定されるJアラートのテストに合わせ訓練を実施します。（発射から着弾まで10分程度）

(1) 訓練の内容

- ① 室内の窓際を避けヘルメットを着用し身を守る
- ② 窓はカーテンを閉めガラス等が飛散しないよう机等で押さえ補強する
- ③ 神奈川県や藤沢市からの情報を注視し行動に生かす。

(2) 新たな情報伝達の仕組み

現状では電話を中心とした連絡となっていますが、緊急時に短時間で情報を伝達するためには電話だけでは十分とは言えません。このようなことからSNS（ソーシャル・ネットワーク・システム）を利用した情報発信の仕組みの検討を進め2018年度中には実用化したいと考えています。もちろん電話による連絡方法と併用することで、緊急時の発信するチャンネルを増やすことがねらいです。このことで速やかな連絡がかなうものと考えています。

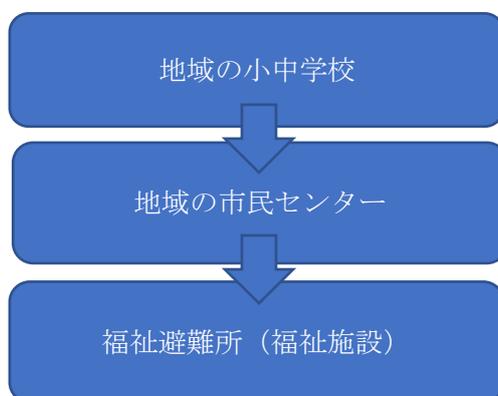
藤沢市との災害協定

VI 藤沢市との災害協定による福祉避難所の開設

大規模災害が起こり甚大な被害が発生した場合に、市の要請により湘南むぎばたけは、福祉避難所として開設することになります。(定員20名)

この福祉避難所は、小中学校の避難所や市民センター内に開設される福祉避難所では生活が難しい障がい児者のための施設になります。基本的には、小中学校に開設される避難所に避難した後の開設となります。

(災害時の避難の流れ・藤沢市の場合)



■ おわりに

東日本大震災以降、日本列島は地震の活動期に入ったのではないかとの研究発表もあります。また地震の頻発は火山活動とも密接な関係にあり今後首都圏でも大規模な地震が発生する可能性も高まっています。このマニュアルには、新たに火山噴火とミサイルの威嚇についても加えました。いつ起こるかわからない災害に少しでも被害が軽減できればと思っています。

注) このマニュアルは、簡易版のため概要の記載となっていることをご了承ください。

緊急連絡先

湘南むぎばたけ ☎ 0466-81-1192

緊急時携帯 090-3513-1072